

灰窒素液に優るものと見られる。

いずれもデラウエアであるが、樹勢の弱い場合は強く現れるが、樹勢の強い場合は両薬剤の差が少なくなると観察されている。

徳島県試上板分場で現地ハウスデラウエアの短梢剪定樹を用いて、石灰窒素処理1月13日、メリット青2倍液処理1月27日、被覆1月23日としたところ、メリット青が萌芽が早く、生育が順調で成熟期が最も早かった。長野県中

野市内の巨峰に結果母枝の先端2芽を除いて、メリット青2倍液を塗布したところ、対照区に比べ萌芽率は高く、中でも基芽の萌芽が良好で、新梢の揃いが平均化した。メリット塗布は、萌芽2週間前に終了したいとしている。

表-9 切り枝の催芽調査

(山梨県試, 1975)

薬剤の種類と濃度	石灰窒素	メリット 2倍	メリット 4倍	メリット 6倍	無処理
ほう芽数	14芽	18	17	11	2
ほう芽率	48%	60	57	37	7

備考) 50(1975)年2月6日処理, 2月24日調査。

表-10 成木の催芽促進調査

(山梨県試, 1975)

薬剤の種類	新梢の位置 項目		第 1 新 梢		第 2 新 梢	
	新梢長	展葉数	新梢長	展葉数	新梢長	展葉数
メリット2倍液	24.9 cm	5.9 枚	24.5 cm	5.7 枚		
石灰窒素上澄液	15.2 cm	4.5 枚	13.8 cm	4.3 枚		

備考) 昭和50(1975)年1月14日処理, 2月24日調査。

メリットについては、まだ試験年限と個所数が少ないが、引続き調査を続けてゆく必要があるものと思う。

〔注 メリットに就いての問合せは、東京都文京区小石川四丁目 エーザイ株式会社に願います。〕

昭和50年度林業関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和50年度林業関係委託試験成績検討会は、昭和51年1月27日、新橋・大東京(東京)ビルにおいて、試験場関係者および委託関係者等約50名参集のもとに開催された。

当検討会では、除草剤2薬剤3件合計11点、

生育調節剤4薬剤合計10点および前回未検討除草剤1薬剤合計2点について、各試験場所担当者の報告、その質疑応答ならびに慎重な検討がなされた。

その判定結果は次のとおりである。

昭和50年度林業関係除草剤・生育調節剤試験結果判定一覧表

A. 除 草 剤

薬 剤 名 { 種類名 } 商品名	有効成分および 含 有 率	委託者名	対 象 樹種名	対象雑草木 (適用地)	試験実施場所名	判定	判 定 の 理 由 内 容 そ の 他
1. NTN-80水和	0-メチル-0-(2	日本特殊農	ス ギ	キク科を除	岩手, 静岡, 広	実継	実: (関東以南)

薬 剤 名 〔種類名〕 〔商品名〕	有効成分および 含 有 率	委託者名	対 象 樹種名	対象雑草木 (適用地)	試験実施場所名	判定	判 定 の 理 由 内 容 そ の 他
1. NTN-80 つづき 剤 〔有機リン系〕 〔トクノールM〕	ーニトロパラード リル) N-イソプロ ビル-ホスホロアミ ドチオネート 60 %	薬製造	(ヒノキ) (アカマツ)	く一年生雑 草全般 (まきつけ 床)	島各林業試験場、 和歌山林業セン ター。(4)		150 ~ 250g/10a, スギ・ヒノキまき つけ直後および生 育期全面土壌処理。 継：関東以南を除く 地域のスギ・ヒノ キおよび全国のア カマツについて薬 量と薬害について。
			スギ ヒノキ (アカマツ)	同 上 (床がえ床)	静岡、広島各林 業試験場。(2)	実継	実：前年通り(スギ ・ヒノキ, 300 ~ 350g/10a 全面土 壌処理)。 継：アカマツに対す る薬害について。
2 NTN-80(微) 粒剤 〔有機リン系〕 〔トクノールM〕 粒剤	同 上 5 %	同 上	スギ ヒノキ	同 上 (床がえ床)	岩手、福島、静 岡、鳥取各林業 試験場、和歌山 林業センター。 (5)	実継	実：4 ~ 5 kg/10a, スギ・ヒノキ植え 付け後および生育 期全面土壌処理。 継：スギ・ヒノキに 対する薬量と効果 について再確認お よびアカマツに対 する薬害について。

B. 生育調節剤

薬 剤 名 〔種類名〕 〔商品名〕	有効成分および 含 有 率	委託者名	対 象 樹種名	試験の ねらい	試験実施場所名	判定	判 定 の 理 由 内 容 そ の 他
1. エバダント乳 剤 〔蒸散抑制剤〕 〔ミドリナール〕	オキシエチレン直鎖 脂肪族アルコール 〔C16~22〕 主としてオキシエ チレンドコサノー ル 10 %	東邦千葉化 学工業	スギ	移植時の萎 凋防止	埼玉、千葉、徳 島各林業試験場 (3)	実継	実：前年通り } スギ 掘取後、地上部ま たは全体浸漬(05 ~ 10 %) } 継：掘取前、地上部 散布について。(試 験条件を整理して 再検討。)
2. N-2000 塗布 剤 〔発根促進剤〕	9-ベンジルアデニン 1,01,001 %	日研化学	クロマツ	成木移植に 先立つ根ま わしの発根 促進	農林省、埼玉、 徳島各林業試験 場。 (3)	継	試験成績不一致。

薬 剤 名 〔種類名〕 〔商品名〕	有効成分および 含 有 率	委託者名	対 象 樹種名	試験の ねらい	試験実施場所名	判定	判 定 の 理 由 内 容 そ の 他
3.MC-C 液剤 〔蒸発抑制剤〕 〔ミクロンC〕	パラフィン・カルナバ ワックス 40%	日本技研	スギ	移植時の萎 凋防止 (苗 床)	埼玉、徳島各林 業試験場、栃木 林業センター。 (3)	実継	実：前年通り〔スギ 掘取後、地上部ま たは全体浸漬(20 ～30倍)〕 継：掘取前、地上部 散布について。(試 験条件を整理して 再検討。)
4.DAMN水溶剤 〔発根促進剤〕	ジアミノマレオニトリ ル %	協和ガス化 学工業	スギ、ゴ ヨウマツ、 ヤブツバ キ、ナナ カマド、 ムクゲ。	さし木時の 発根促進	福島林業試験場。 (1)	継	試験年次例数不足。

C. 前回未検討分除草剤（昭和49年度分）

薬 剤 名 〔種類名〕 〔商品名〕	有効成分および 含 有 率	委託者名	対 象 樹種名	対象雑草名 (適用地)	試験実施場所名	判定	判 定 の 理 由 内 容 そ の 他
1.DPX-118 液 剤 〔クレナイト〕	アンモニウム エチル カルバモイル ホス ホネート 420%	デュボン・ ファーイー スト日本支 社		コナラ、ク ロモジ、ネ ジキ、クリ 等雑かん木 (地ごしら え)	農林省(赤沼)、 鳥取各林業試験 場。 (2)	継	試験年次不足。

昭和49～50年度牧野草地関係 除草剤・生育調節剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

昭和49・50年度牧野草地関係除草剤・生育調節剤委託試験成績検討会は、昭和51年3月4日、農林省草地試験場(栃木県西那須野町)において、関係者約25名が参集のもとに開催された。

検討会は昭和49年度には開催されなかった

ので、49・50両年分について検討された。検討された薬剤は、除草剤が5薬剤、生育調節剤が1薬剤で、これらについて質疑応答ならびに慎重な成績検討が行われた。

判定結果等を示すと次表のとおりである。